

ZEPHYROS

ゼフェロス No.21

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



オーギュスト・ロダン
《カレーの市民》
1884-88年 プロンズ
松方コレクション

日本にもたらされたロダン《カレーの市民》

国立西洋美術館の前庭に設置されている《カレーの市民》は、ロダンの傑作にあげられる作品ですが、同時にロダンにとっては公共機関から発注され、生きている間に公に設置された数少ないモニュメントとすることができます。代表作である《地獄の門》や《バルザック》が、発注を受けたものの完成に至らなかつたり、完成しても受けとりを拒否されたりして、いずれも生前には公共の場所に設置されることがなかったことを考えると、異例の作品ともいえるでしょう。

この作品は、ドーヴェー海峡に面するフランスのカレー市が、14世紀にフランスとイギリスの間で起きた百年戦争にまつわる英雄の姿を記念する像を、ロダンに発注したことにより実現しました。英雄といっても、ここに登場するのは政治家でも軍人でもなく、当時の一般市民です。百年戦争のさなか、イギリス軍に包

日本にもたらされたロダン《カレーの市民》

困され、危機的状況にあったカレー市にたいし、イギリス王が攻撃を回避する条件として求めたのは、市内の有力市民たちの身柄でした。この作品では、このとき市を救うために自ら名乗りでた6名がモデルとなっています。ロダンは、うつむいて絶望の表情を見せる最年長のユスターシュ・ド・サン＝ピエールを中心にして、周囲に波紋が広がるかのように他の5人を配しています。6人とも簡素な長い衣服を身に纏っていますが、それらがかたちづくる深い皺が人物たちに荘重な印象を与えています。《バルザック》のように受けとりを拒否されることこそなかったものの、《カレーの市民》についても構成や台座の形式、設置方法などの点で、市の要求とロダンの希望に何度か食い違いが起り、そのつど厳しいやりとりが交わされました。こうしてカレー市でこのモニュメントが除幕されたのは、発注から11年後の1895年のことでした。

さて、現在の国立西洋美術館のコレクションの基礎を築いた松方幸次郎の発注により、ロダン美術館の指示で、あらためて《カレーの市民》が鑄造されたのは1919年から1921年の間であることがわかっています。つまりこのときから《カレーの市民》が日本に送られるまでには、第二次世界大戦を挟んで40年近くの年月が流れたこととなります。この間、もともと松方の発注で鑄造された《カレーの市民》は、1920年代にアメリカのコレクターに売却されます。そしてそれを補填する意味で次に鑄造された像は、第二次世界大戦中ナチスの求めに応じてケルンの美術館に収められることとなります。これが戦後パリに戻され、現在もパリのロダン美術館の庭に展示されているものです。その後1950年代に入ってから日仏両政府の間で、パリに残され、戦争中、敵性資産としてフランスに没収されていた松方収集の美術品の寄贈、返還交渉が行われます。本来なら、パリに戻った《カレーの市民》を日本に寄贈、返還するところですが、ロダン美術館は所蔵する《カレーの市民》をそのまま残すことを強く要望しました。その結果、国立西洋美術館に向けてはまたあらたに鑄造することが決まります。こうして1953年に鑄造された《カレーの市民》が日本に送られ、1959年に国立西洋美術館のコレクションとして公開され、今日に至っています。

(主任研究官 大屋 美那)



オーギュスト・ロダン
《カレーの市民》 1884-88年 石膏
ロダン美術館(ムードン)蔵 筆者撮影

美術品を守るために②(光について)

the national museum of western art, tokyo

美術館の展示室内には窓が少ない、もしくはほとんどないことが多いということにお気づきの方もいらっしゃると思います。西洋美術館も本館の2階、新館1階の一部をのぞいて、展示室内には窓がありません。その理由には建物外から美術品がある展示室に直接通じる部分を極力減らす、もしくはなくすという警備保安上の要素、直射日光が美術品に当たるのを防ぐという美術品の保存上の要素、などいくつかあげられます。今回はこのうち窓から入る光が美術品に与える影響について簡単に解説します。

太陽光線には人間の目が感知できる範囲の可視光線のほかに、人間の目が感知できない紫外線や赤外線なども含まれています。紫外線はお肌にシミを作る原因ともいわれていますが、可視光線に比べてエネルギーが大きく、これが物質にあたると化学変化が起こる可能性が高くなります。そのため美術品に紫外線があたり続けると、例えば染料が色褪せたり、絵画表面に施されたワニスが変色したりする可能性があります。一方、赤外線は熱線といわれることもあり、これが物質にあたり続けると表面から温度が上がり、化学変化がより起こりやすい状況を作り、また表面が乾いて変形したりします。また太陽光線はその強さが季節、時間、天候により大きく変化しますが、真夏の晴天時の日光のように強い光は、可視光線だけをとっても害を及ぼす可能性があります。これらのことは日常ご家庭でも起こりうることで、例えば本棚に直射日光が当たっていて、本の背表紙だけ色があせてしまうという経験がある方もいらっしゃるでしょう。また多くの食品や医薬品には直射日光をさけて保存するように注意書きがされていると思います。

そのため美術館の展示室に窓がある場合には、直接日光が当たるような位置には美術品を置かずに、日光を間接照明として用いる工夫をしたり、カーテンやブラインドをもうけて日光の入射を制限したり、紫外線を除去して可視光線、赤外線も弱めるようなフィルムを貼ったりして、美術品になるべく害を与えないように工夫がなされています。

(主任研究官 塚田 全彦)



本館2階展示室内の窓(窓全体にフィルムが貼ってある)

ボランティア・スタッフによるファミリープログラムがいよいよ始まります!

the national museum of western art, tokyo

当館では今年の春にボランティアの募集を行い、およそ15名の募集に対し数多くの方からご応募をいただきました。応募の書類からは、応募してくださった方々の美術や美術館の教育普及活動に対する理解、熱意が伝わってきました。活動可能な曜日、募集人数などの関係で、多くの方々を採用できなかったことを残念に思っています。今後、こうした数多くの善意や希望が活かされるボランティア・プログラムを展開していきたいと思っています。

さて、ボランティア候補生も研修を半ば終え、いよいよ11月から活動を開始します。初めての活動となるのは、6才から10才までの子どもと同伴の大人を対象とするファミリープログラムです。これは新しいプログラムで、2種類の異なる活動を用意していますが、いずれも当館のコレクションを楽しむためのものです。一つは当館の教育普及インターンによって開発・作成された道具（ツール）を無料で貸し出すプログラムです。“びじゅつーる”と呼ばれるこのツールは、子どもと大人と一緒に使うもので、特別な知識を知らなくても様々な切り口から作品を楽しむことができるように作られています。それぞれの家族で楽しむ予約不要のプログラムです。もう一つは、“どうようびじゅつ”という、常設展の作品鑑賞と簡単な制作あるいはゲームなどからなるおよそ2時間のプログラムで、事前の予約が必要となります。こちらは、美術館やボランティアのスタッフと一緒に行うものです。

“びじゅつーる”と“どうようびじゅつ”のいずれも、常設展の無料観覧日となる月の第2、第4土曜日に行われます。無料観覧日には、ご家族で美術館を楽しんでみませんか。みなさんのご参加をお待ちしています。

*プログラムの詳細は本誌のイベント・ページをご覧ください。また、ファミリープログラムを含む教育プログラムについては、当館のホームページ (<http://www.nmwa.go.jp/>) でもご案内しています。

(主任研究官 寺島 洋子)



展示室で“びじゅつーる”を使う家族

11月から下記のファミリープログラムが始まります。ファミリープログラムを行う月の第2/第4土曜日は、常設展の無料観覧日です。ご家族でぜひご参加ください。

◆びじゅつーる

美術館のギャラリーで使う作品鑑賞用の道具（びじゅつーる）の貸し出しを行います。

対象：6才～10才の子どもと同伴の大人
 貸出日：11月13日(土)、27日(土)、12月11日(土)、25日(土)、1月8日(土)、22日(土)
 時間：10:00～17:00(貸出受付は16:00まで)

*予約は必要ありません。(貸出は無料です。)
 *マティス展開催期間中は常設展示室に入ったところに貸出の受付を用意します。



◆どようびじゅつ

「おもいで風景」

美術館やボランティアのスタッフと一緒に、常設展にあるいろいろな季節を描いた風景の絵を見た後、ちょっと変わった方法で思い出を絵にしよう。

対象：6才～10才の子どもと同伴の大人(子どものみの参加は不可)
 定員：15名(含大人)
 時間：2月12日(土)、26日(土)、3月12日(土)、26日(土)
 午前の部 10:30～12:30
 午後の部 14:00～16:00

*2月、3月の内容は8回全て同じです
 *予約が必要となります。(先着順)

応募方法：当館ホームページ (<http://www.nmwa.go.jp/>) のイベントページから直接、またはファミリープログラム案内パンフレットの申込用紙を使いファックスでお申し込みください。

宛先及びお問い合わせ先：

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
 国立西洋美術館「ファミリープログラム」係
 TEL (03) 3828-5168
 FAX (03) 3828-5797

常設展ミュージアムショップにて

2005年国立西洋美術館
 カレンダー販売中！

1,260円(税込) 是非お買い求めください。

●イベントカレンダー●

【11月】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

【12月】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

【1月】

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

【2月】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

【3月】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

…●びじゅつーる貸出日

…●どようびじゅつプログラム開催日



展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2004年11月～2005年4月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日
土・祝日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

11
NOVEMBER

マティス展 (企画展示室) 9月10日(金)～12月12日(日)

オランダ・マニエリスム版画展 (新館2F版画素描室) 9月10日(金)～12月12日(日)



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

12
DECEMBER

マティス展 最終日 12月12日(日)

オランダ・マニエリスム版画展 最終日 12月12日(日)

年末年始
休館
12月28日(火)
1月1日(土)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

1
JANUARY

1月2日(日)～開館(常設展示)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

2
FEBRUARY

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

3
MARCH

● ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展
(企画展示室) 3月8日(火)～5月29日(日)

● マックス・クリンガー連作版画展(仮称)
(新館2F版画素描室) 3月8日(火)～5月29日(日)(予定)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

4
APRIL

● ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展 (企画展示室) 3月8日(火)～5月29日(日)

● マックス・クリンガー連作版画展(仮称)
(新館2F版画素描室) 3月8日(火)～5月29日(日)(予定)

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分*平成16年は6月29日から12月12日まで(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中=午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)

- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

- 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第21号

編集・発行 国立西洋美術館/平成16年11月20日(年4回発行)
協力(財)西洋美術振興財団
印刷(株)アイネット